

# 赤十字NEWS

February 2012 Vol.861  
http://www.jrc.or.jp



編集・発行 / 日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

## CONTENTS

### TOPICS 2

東日本大震災復興支援  
中田英寿さんジャージ寄贈  
日赤キッズプロジェクト~移動映画館  
冬の被災者サポート  
常任理事会開催報告  
第79回代議員会開催公告

### TOPICS 3

静岡で第1回赤十字  
救急法競技会開催  
「放射線の基礎知識と予防対策」  
幼児安全法に導入  
職員募集

### SPECIAL 4 5

献血特集  
~あなたも献血ボランティア~

### AREA NEWS 6 7

茨城・兵庫・愛知・長崎  
徳島・大分・東京・長野  
書籍紹介  
Voice & プレゼント

### WORLD 8

ハイチ大地震から2年  
~より良い地域を目指して~  
ジンバブエの刑務所で人道活動  
南アフリカHIV対策事業



## 石川遼選手 3年目の決意 「この腕で助かる いのちがある。」

### 「はたちの献血」キャンペーン(1月1日~2月29日)

「若い人たちの献血が減っているのは自分たちの問題。僕らが頑張らなければと思っています」  
成人を迎える若者を中心に献血への理解と協力を広げていく「はたちの献血」キャンペーン。  
3年連続で広報キャラクターを務めるプロゴルファーの石川遼選手が力強く決意を語りました。10  
~20代の献血者がこの10年間で40%も減少しており、今、若い世代の献血が求められています。  
石川選手やキャンペーンソング「HERO」を歌う MONKEY MAJIK も出演する全国放送中の  
テレビCMでは「献血はからだひとつでできるボランティア」と呼びかけます。

1月5日、日本赤十字社で行われた記者発表会で

## クロスアップひと



ミュージシャン  
MONKEY MAJIK

## 思いやる気持ちで誰もが「ヒーロー」になれる

仙台市を活動拠点とするメンバーは震災後、がれき処理などのボランティア活動を行う中で、「ガソリンスタンドの店員さんなど、普通の人々が被災者のためにヒーローとして活動していることに気づいた」と言います。

「はたちの献血」キャンペーンのために作った楽曲「HERO」には、「思いやる気持ちを持って誰もがヒーローになれる。自分の中のヒーローを探して」との願いが込められています。

一方で、「ヒーローになるには自己犠牲も伴う」とDICKさん。出身地カナダで何度も献血を経験したブレイズさんは「本当は針が苦手」だそうです。兄のメイナードさんは「それでも40分程度の努力で誰かのいのちを助けられると思えば、針が怖いなんてすぐ忘れますよ」と力強く話してくれました。

DICKさんは「献血を入口にほかのボランティア活動にもつながっていけば、世の中がもっと良くなる」と期待を寄せています。

### PROFILE

ツインボーカル・ギターを務めるカナダ人兄弟(メイナード、ブレイズ)と日本人のリズム隊tax、DICKからなる4人組バンド。2000年に仙台市で結成。セカンドシングル「Around The World」で知名度を全国区に広げると、その後多くの楽曲がCM、ドラマに起用される。「はたちの献血」キャンペーンのCM曲「HERO」が好評発売中。

# 東日本大震災復興支援

## 中田英寿さんからエール サッカー少年・少女へ ジャージ寄贈



子どもたちからは「サインが消えないように洗濯しません！大切にします」の声も

サッカー元日本代表の中田英寿氏が代表理事を務める一般財団法人「TAKE ACTION FOUNDATION」(TAF)から寄せられた海外救援金を活用して日本赤十字社は昨年12月末、被災3県のサッカー少年・少女に練習用ジャージをプレゼントしました。

中田氏は「辛いことは一人ひとりで乗り越えていくしかないけど、楽しいことは共有」(5月)で開催されたTAFの「サッカーを通じて元気を」

「子どもたちの代表は「これを励みに精一杯サッカーを頑張っていきたい」と挨拶。中田氏への質問コーナーでは、「サッカーで一番心に残ったことは？」などの質問も出されました。

同24日に福島県相馬市立磯部中学校で行われた寄贈式には中田氏も出席。地元6つのサッカーチーム代表にジャージを手渡した後、約140人の子どもたち全員へサインをプレゼントしました。

ジャージの寄贈式に先立ち、磯部中学校の体育館ではサッカーチームの子どもたちと父母を対象にしたAED(自動体外式除細動器)講習会も開催されました。

### いのちも守るプレーヤーに！ AED講習会を同時開催



講師を務めた救急法指導員からは「まずは119番。それから大人の人を呼んでくる。そのことを忘れないで!」の注意も

チーム、学校ごと数人ずつのグループに分かれて、赤十字ボランティアの救急法指導員からAEDの手順、心肺蘇生法などの説明を受け、交代で操作に挑戦しました。

「私自身は今日で3回目の講習ですが、繰り返すのが大切です」と語りました。

中学1年生の向坂祐樹君は「手順が難しかった。また機会があれば練習したい」と感想。中2の男子生徒の母親、六角千恵子さんは



「パッドを敷くと温かくて良いです」

### 厳しい冬に負けないで 寒さ対策と 予防注射で 被災者をサポート

冬本番の被災地。日本赤十字社は海外救援金による復興支援事業の一環として、「冬場対策セット」の配付など被災者へ温かさや健康を届ける取り組みを行っています。冬場対策セットは岩手、宮城、福島のプレハブ仮設住宅

慣れない仮設住宅での生活や環境変化によるストレスで、肺炎の罹患リスクが高齢者に高まっています。こうした事態に、3県の70歳以上の高齢者を対象に肺炎球菌ワクチンを予防接種する事業も実施中です。

自治体と県医師会、日赤が協力した取り組みで、接種費用の全額を日赤が負担。12月末までに28万人以上の高齢者が接種を受けました。

### 日赤キッズクロスプロジェクト 被災地に移動映画館 出前出張中!



「子どもたちに夢と元気を」日本赤十字社はそんな願いが込められた移動映画館を被災地で展開中です。昨年12月には福島県と岩手県の幼稚園・保育園で、人気アニメ『ゼンマイざむらい』の上映会を実施。アニメの後は、レクリエーションを交えた風邪予防教室が日赤スタッフにより行われ、岩手県大船渡市の明和保育園

### 第七十九回代議員会開催公告

平成24年3月27日(火)、午後1時から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第79回代議員会を開催し、左記の事項を付議いたします。  
平成24年2月1日

常任理事会開催報告  
平成24年1月20日、本社において平成23年度第9回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

上野うき子園長は「クリスマス会は子どもたちにとっての一大イベント。学生の皆さんに合わせ移動映画館を開催しました。会には、岩手大学学生赤十字奉仕団の7人もボランティアとして参加しました。学生たちは「この日のために練習した」というハンドベルで「あわてんぼうのサンタクロース」を演奏したり、手書きのメッセージカードを添えたハンカチなどをプレゼント。園児たちからはお礼としてAKB48のダンスが披露されました。

# 競い合ってスキルアップ

## 静岡 初の救急法競技会開催

日本各地で冷たい雨や雪が降った1月21日、静岡県支部による第1回赤十字救急法競技会が静岡市中央体育館で開催されました。

同県では初めてとなるこの競技会には、県内の各赤十字奉仕団や青少年赤十字（JRC）加盟校のほか、ライフセービングクラブに所属する大学生や、支部主催の救急法講習会を受講した一般の方々など、全63チーム・約240人が参加しました。競技種目は三角巾八つ折り、三角巾リレー、救命応急手当、心肺蘇生法の4つ。各チームは日ごろの練習成果とチームワークを十分に発揮しながら

ら競技に取り組みました。救急法の競技会は、参加者の日常生活における安全意識を高めるとともに、事故や災害時に協力し合いながら活動するための知識と技術の向上を目的としています。参加者同士の交流や、ボランティアとしての相互連携を強める効果もあります。

合計成績で総合1位に輝いたのは、若さで奮闘した北里大学のライフセービングチーム。メンバーは「競技前は緊張しましたが、スタートしてからはいつも通りの救急法ができました。技術を高める、もしものときに役立てたい」と笑顔で語りました。

総合2位は、沼津赤十字奉仕団の「はまゆう」チームです。リーダーの菅沼厚子さん（65歳）は「第1回大会にあたり、今まで学んできた救急法を体当たりで、そして誠心誠意やってみよう」と参加しましたが、賞をいただけるなんて夢みたいです。他のチームの救急法を見てとても勉強になりました。意識や技術を高めるといっても勉強になりました。意識や技術を高めるといっても勉強になりました。意識や技術を高めるといっても勉強になりました。



AED（自動体外式除細動器）を使う心肺蘇生法競技で優勝した東海大学海洋学部ライフセービングクラブLOCO Cチームの餘慶昌太くんと山本結子さんペア



チームみんなで救急車が到着するまでの傷病者の救命応急手当を競う

「講習で身につけた救急法の技術を、競技会という緊張感のある中で実行することによって、さらにスキルアップしていただきたいと思っています。競技会が救急法のいっく予定です。」

「講習で身につけた救急法の技術を、競技会という緊張感のある中で実行することによって、さらにスキルアップしていただきたいと思っています。競技会が救急法のいっく予定です。」

「講習で身につけた救急法の技術を、競技会という緊張感のある中で実行することによって、さらにスキルアップしていただきたいと思っています。競技会が救急法のいっく予定です。」

## 「放射線の基礎知識と予防対策」 幼児安全法に導入

### 父母の不安解消を目指す

福島第一原発事故による健康不安の軽減や住民の健康管理、将来に備えた専門家の育成など、日本赤十字社は原子力災害の被災者支援に向けた新たな取り組みを順次スタートさせています。

全法の短期講習に放射線の基礎知識を学ぶプログラムを導入。妊婦や乳幼児を抱える父母を中心に広がる不安の解消に努めています。

今年度からスタートした日本赤十字社と日本コープ共済生活協同組合連合会（コープ共済連）とのタイアップ事業

の環境として幼児安全法ワークショップが1月14日、横浜市内で開催されました。この講座にも「放射線の基礎知識と予防対策」が盛り込まれ、参加したコープ共済連ライフプランアドバイザーの皆さんから好評を博しました。

将来の原子力災害にどう対処するのことも重要なテーマです。昨秋には、広島大学と乳児のどに物を詰まらせたときの処置を体験

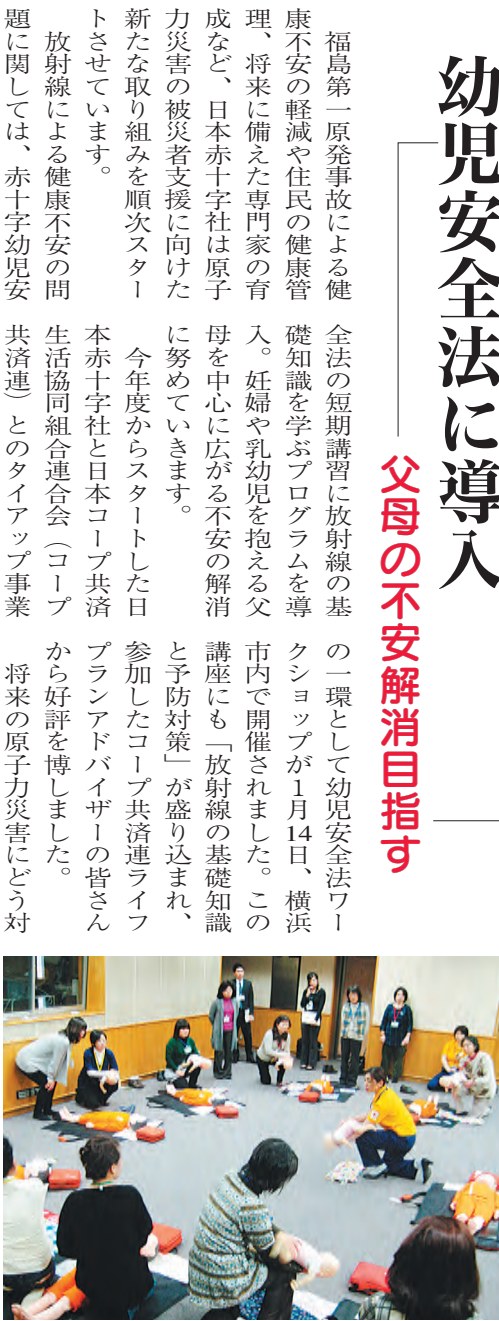
放射線による健康不安の問題に関しては、赤十字幼児安

共済連）とのタイアップ事業

から好評を博しました。

将来の原子力災害にどう対

処するのことも重要なテーマです。昨秋には、広島大学と乳児のどに物を詰まらせたときの処置を体験



乳児のどに物を詰まらせたときの処置を体験

結しました。また、原発事故発生時の救護活動を想定し、看護師の教育・研修科目にも放射線に関する基礎知識を追加していく予定です。

# 日本赤十字社では総合職職員を募集しています



仲間になりませんか！ フィールドは無限大 全国に 世界にはばたく

「赤十字の仕事」と聞くと、どんな仕事をイメージしますか？ 病院で働く医師や看護師だけでなく、実はたくさんの総合職職員も活躍中。日本赤十字社では、赤十字活動の未来を担うこうした総合職職員を募集しています。人間のいのちと健康、尊厳を守るためにチャレンジしたい、そんな熱い情熱を持つ若い方の応募を待っています。

### 総合職ってどんな仕事？

日赤が展開する国内災害救護や国際活動、血液事業、病院など9つの事業を支えるのが総合職の使命。その活躍のフィールドは人道にかかわるすべてに広がっています。

### エントリーはネットから！

お問い合わせ先 詳細は、マイナビ2013 (<http://job13.mynavi.jp/13/pc/search/corp78424/flex.html>) または日赤ホームページ (<http://www.jrc.or.jp/>)まで。

※本社および首都圏以外の採用試験については、各道府県支部へ直接お問い合わせください。



いのちをつなげよう みんなでつなげよう 未来へつなげよう

# 勇気と愛で あなたも献血ボランティア

がんや白血病などの治療に欠かせない血液製剤。1日3000人、年間で100万人ものいのちが輸血により救われています。この血液製剤の原料は献血で採取された血液です。血液は人工的に造ることができません。人間のいのちを救うのは、人間なのです。「献血はからだひとつでできるボランティア」。あなたも、いのちを救うボランティアの仲間になりませんか。

## ドキドキ献血体験！/ポート 勇気を出して初めての挑戦！

日本社・企画広報室で赤十字新聞の編集を担当している新人Mちゃんは献血未経験なんだっ。そんな彼女が若者世代を代表して献血に初チャレンジしたっ！



献血カード受け取り



休憩

### スタート！



献血場所へ

カードには過去3回の献血履歴や次の献血可能日などが印字されるっ。

献血ボランティアの仲間になった証です！

### 献血方法別の採血基準

項目	全血献血		成分献血	
	200mL献血	400mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	600mL以下 (循環血液量の12%以内)	400mL以下
年齢	16歳～69歳*	男性 17歳～69歳* 女性 18歳～69歳*	18歳～69歳*	男性 18歳～69歳* 女性 18歳～54歳*
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女とも 50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	—
最高血圧	90mmHg以上			
血色素量	男性12.5g/dL以上 女性12.5g/dL以上	男性13g/dL以上 女性12.5g/dL以上	12g/dL以上 (赤血球数が標準値にある女性11.5g/dL以上)	12g/dL以上
血小板数	—	—	—	15万/μL以上 60万/μL以下
年間献血回数	男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	—
年間総献血量	200mL献血と400mL献血を合わせて 男性1,200mL以内、女性800mL以内		—	—

### 献血(200mL/400mL/成分献血)



献血(200mL/400mL/成分献血)

200・400mL献血で10～15分。成分献血では採血量により40～90分必要だっ。

針を刺した痛みは最初だけ。看護師さんもやさしくて不安解消！

### 血色素量測定/血液型事前判定



血色素量測定/血液型事前判定

献血前の採血は約2mLだから、全然余裕!!

### 医師による問診



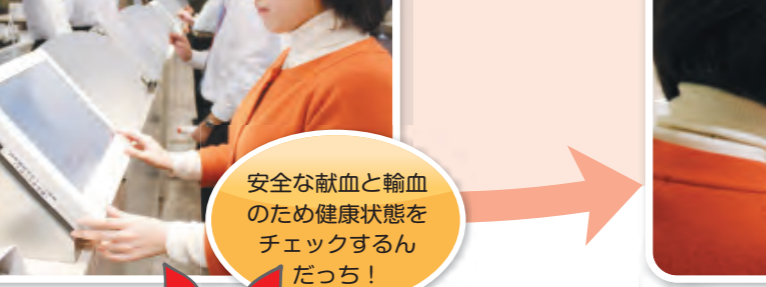
医師による問診

問診票に基づいて問診と血圧測定を行うっ。

### 残念!

献血ができないケースも輸血による感染リスクを減らすため、海外から入国して4週間以内、特定の病気にかかったことがある方、エイズ検査が目的など献血不適条件に当てはまる方は献血できません。

### 問診票の記入



問診票の記入

安全な献血と輸血のため健康状態をチェックするんだっ!

### 献血した血液が患者さんに届くまで

ここからはけんけつちゃんのお兄さんの存在、健助さんが案内します。



#### 製剤①



製剤①

遠心分離機で赤血球と血漿に分けられて、成分ごとの輸血用血液製剤が造られている。

#### ① 主存輸血用血液製剤

輸血用血液製剤は長期保管が難しく、中でも血小板製剤の有効期間はわずか4日。だから、絶え間ない献血への協力が必要です。(写真は赤血球製剤)

#### 保管



保管

血液製剤は成分によって保存温度などが異なるから、それぞれに適した条件で保管されているんだ。

#### 製剤②



製剤②

分離された血漿の一部は血漿分画センター(北海道・千歳)や一部の国内製薬メーカーへ送られ、血漿分画製剤が造られる。

#### ② 主存血漿分画製剤

血漿に含まれるタンパク質を抽出・精製して造られます。血友病患者の出血時や肝臓病、腎臓病、B型肝炎の母子間感染予防など幅広い治療に使われています。

#### 供給



供給

血液製剤は品質を保つため特殊な容器で運搬。医療機関の求めに応じるため、24時間体制で準備、供給をしているよ。

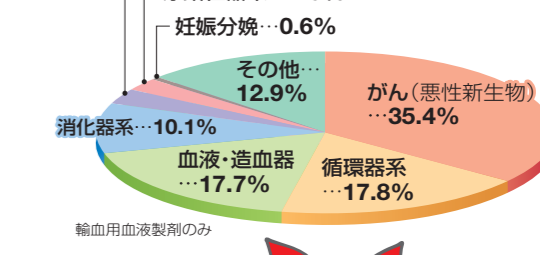
#### 患者さんのもとへ



患者さんのもとへ

輸血用血液製剤はがん治療に最も多く使われている。抗がん剤を使うと造血機能が損なわれてしまい、輸血でそれを補う必要があるからなんだ。

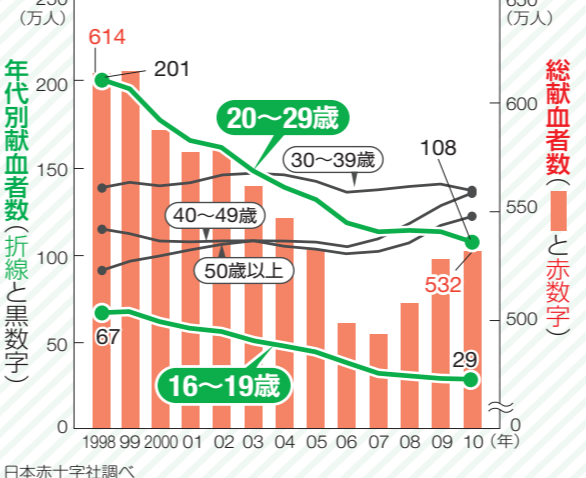
#### ● 疾病別輸血状況



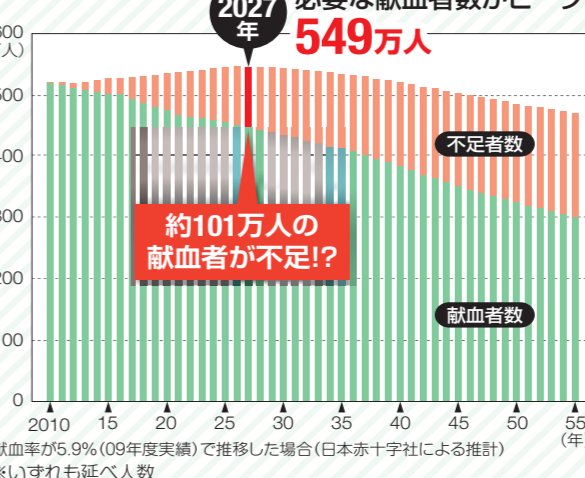
### 増える血液需要 減る献血者

輸血を必要とする高齢者は増えるのに献血者は減少。推計では15年後には約101万人分の血液が足りなくなります。将来の献血不足をくい止めるためには、10～20代の若者世代の献血率を今から回復させていくことが不可欠です。

#### ● 12年で5割減の若者献血



#### ● 15年後の献血者不足は101万人!



### LOVE in Action

#### ご当地大作戦展開中!!



日本赤十字社の献血推進イベント「LOVE in Action プロジェクトご当地大作戦」が昨年の12月23日、札幌市のサッポロファクトリーで開かれ、プロジェクトリーダーのラジオDJ・山本シュウさん(写真)がおなじみの合い言葉「WE ARE シンセキ」で献血を呼びかけました。この作戦は、若い人たちにもっと献血に参加してもらおうと2009年から全国各地で開催しているイベント。会場にはプロサッカーJ1昇格を果たした地元チーム・コンサドーレ札幌から2選手が応援にかけつけるなど、降り積もった雪が解けて無くなるほどの熱気で盛り上がりました。

### 特技生かし災害対応を 防災ボランティア演習



交通路の寸断が予想される災害時にはバイクの機動力が大きな戦力に



長崎 2011.11.13

長崎市が震度6弱の地震に襲われたとの想定による「平成23年度赤十字防災ボランティア演習」が11月13日、市内の稲佐山公園で実施されました。演習には県内から各種奉仕団員や個人ボランティアら約100人が参加。公園内に被害発生地区や避難所を設け、負傷者の救助や誘導を行ったほか、それぞれの奉仕団の技術を活かし、無線、バイク、セスナ機による被害状況などの情報収集訓練も実施されました。また、ボランティアセンターの設置・運営の技術についての確認やボランティア間相互の連携もチェック。発災時の迅速かつ円滑な災害対応へ向け、熱のこもった演習となりました。

### JRC校で炊き出し訓練 小学生が非常食作り体験



「本当にごはんが炊けるの?」とみんな興味津々



徳島 2011.12.19

今年度新たにJRCに加盟した藍住町立藍住東小学校で12月19日、災害時を想定した炊き出し訓練が行われました。訓練に参加したのは4年生児童のメンバー60人。徳島県支部職員と賛助奉仕団員が災害救護などについて説明した後、移動炊飯器と炊飯袋(ハイゼックス)を使い非常食作りを体験しました。県支部では、赤十字有功会の協力により、災害時に避難所となる学校や施設への災害用移動炊飯器の設置を推進しています。南海・東南海地震に備えた防災意識の向上やJRC加盟校の活動活性化を図るため、今後もJRCメンバーを対象にした炊き出し訓練などの取り組みを広げていく予定です。

### JRC高校生がもちつき 独り暮らし高齢者へ お正月のプレゼント



もちつき初心者のメンバーは事前の勉強会で予習してから本番に臨みました



大分 2011.12.25

大分市・別府市地区の高等学校JRCメンバー約50人が12月25日、高齢者に温かな気持ちで新年を迎えてもらおうと大分市内でもちつきを行いました。実行委員中心に計画され、費用も募金でまかなわれたこのもちつきは毎年恒例の行事。赤十字奉仕団からのアドバイスを受けながら35キロのもちをついたメンバーは翌日、約270人の独り暮らしの高齢者のもとを地区の民生委員と一緒に訪れ、メッセージカードを添えたおもちを届けました。実行委員長岡方凌君(県立鶴崎工業高校2年)は「これからも元気に長生きしてほしい。準備は大変でしたがやって良かった」と話していました。

### 九州八県赤十字大会開催 常陸宮妃殿下がおことば



有功章は常陸宮妃殿下より授与されました



九州 2011.11.17

平成23年度九州八県赤十字大会が11月17日、日本赤十字社名誉副総裁常陸宮妃殿下ご臨席の下、大分市内で開催されました。大会は九州八県支部が毎年輪番で開催しているもので、今年は約1500人が参加。事業資金協力やボランティア活動などに功労のあった210人に有功章や社長感謝状が贈呈されました。大会では、常陸宮妃殿下が「九州での赤十字活動の着実な歩みに敬意と感謝を表します。より一層力強い活動を国内外で進めることを願います」とおことばを述べられました。また、青少年赤十字メンバーの安達瞳さん(県立大分西高等学校3年生)が大会宣言を行いました。



ボランティア・スピリット・アワードは青少年のボランティア活動奨励を目的に1997年創設。昨年は全国から2030件の応募が集まりました

### 県立竹園高等学校青少年赤十字部 ボランティア・スピリット賞受賞



茨城 2011.11.26

茨城県立竹園高等学校(市村博校長)の青少年赤十字(JRC)部が昨年11月、第15回「ボランティア・スピリット・アワード」(生保5社と日本教育新聞社主催)で2年連続となるコミュニティ賞を受賞しました。同校では保健委員会環境班による環境問題への取り組みもブロック賞を受賞。ダブル受賞となりました。

同校のJRC部では、「紙リサイクル運動」で集めた古紙を回収業者に売却し、その代金で車いすを毎年1台、社会福祉協議会へ寄贈しているほか、通学路の清掃や老人ホーム訪問などのボランティア活動を行っています。また、昨年は東日本大震災復興支援の「絆プロジェクト」として、市内・校内での募金や支援物資の呼びかけ活動、学校祭での校内バザーの企画・運営などに取り組みました。今回の受賞はこれらの活動が評価されたものです。

表彰式に出席した部員からは、「他の団体の活動を知ることができ、今後の活動への意欲がわいた」「活動での悩みや苦勞、解決策なども共有でき有意義な時間を過ごせた。これからの活動の良い刺激になった」との感想があがりました。

### 海を越えた2人が仲間に 看護師資格目指し来日



2人は「患者さんの1日も早い回復のために一生懸命頑張りたい」と抱負



兵庫 2012.1.6

日本とインドネシアとのEPA(経済連携協定)に基づき、日本の看護師資格を取得するため来日しているララスワティさん(左)とヘンガルさん(右)が姫路赤十字病院で1月6日から看護助手として働き始めました。昨年7月に来日した2人は半年間、日本語や生活習慣などを研修。これから3年間、姫路赤十字病院で働きながら、日本での看護師国家試験合格を目指します。

EPAに基づく外国からの看護師候補者の受け入れは2008年度からスタート。合格率4%(2010年度)の難関ですが、日赤の病院で働いてきた看護師候補者のうち、これまで2人が看護師免許を取得しています。

### 災害に備え救援物資準備 毛布6500枚を倉庫に



日常の備えが災害時の迅速な対応を支えます



愛知 2012.1.12

災害時、避難所などで被災者へ配られる救援物資用の毛布6500枚が1月12日、日本赤十字豊田看護大学内の倉庫に搬入されました。

愛知県支部では、支部にある救護倉庫をはじめ県内11カ所にある倉庫へ救援物資を分散して備蓄しています。東日本大震災では、東北3県を中心に毛布約13万枚、緊急セット約3万個などが被災者へ配付されましたが、愛知県からも毛布など多くの救援物資が被災地へ届けられ、有効活用されました。

県支部のスタッフ総出で行った今回の毛布搬入作業。日本赤十字社では、いつ災害が起きてもすぐに対応できるように体制を整えています。

書籍紹介



『わたしのの中の赤十字』に  
広がる熱い感動



日本赤十字社「もっとクロス！」応援プロジェクト編  
B6判160頁/1,260円(税込)

昨年秋に出版された『わたしのの中の赤十字』。読者の皆さんから心温まる感想が寄せられています。そうした中から、千葉県浦安市の赤十字奉仕団員、田所由香さんからいただいた感想を紹介いたします。

『わたしのの中の赤十字』をもっとみんなの中に！

東日本大震災では、浦安市内の86%が「液状化」。家は傾き、道路・上下水道・ガスのライフラインが壊れ、都市型の災害として甚大な被害を受けました。わが奉仕団は1カ月間おにぎりを作り続け、街頭募金も行ってきましたが、通常の活動が再開できるようになったのは秋以降です。

私自身も被災者となり赤十字の見舞金を受けました。そんなころ、『わたしのの中の赤十字』に出会いました。生死に向き合う厳しい現場があり組織があり、人がいる。そんな体験談が淡々とまとめられています。上品なイラストは本が伝えようとする人間の温かさを表現していました。私は感銘を受け、年の暮れに延期されていた社資募集活動では、元気良く自信を持って市内をまわることができました。

「どのような時代にあっても、赤十字に寄せられる信頼を裏切ることなく、けれど、それに萎縮することなく」という近衛社長の手記にあるように、赤十字の活動を支えているという自覚と勇気をこの本からいただきました。是非、大勢の仲間を読んでほしいと勧めているところです。

※ご注文・お問い合わせは(株)PHP研究所 TEL075-681-1295または同社WEBサイトから(書店での取り扱いはありません)。

※(株)日赤サービスの売店(日赤本社内)でも直接ご購入いただけます。

Voice&プレゼント

20年ぶりの献血

匿名希望(山形県米沢市)

20年ぶりくらいに献血しました。思っていたより早くできたと、あまり痛くなかったので、これからは積極的に献血しようと思います。

プレゼント応募方法

本紙一面「クローズアップひと」のコーナーで紹介している「MONKEY MAJIK」のサイン色紙を3名にプレゼントします。以下の項目を明記の上、郵送・FAX・メールにて応募ください。

- ①お名前(匿名ご希望の場合はその旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所
- ③電話番号
- ④年齢
- ⑤赤十字新聞2月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑥赤十字新聞へのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

●応募先

・郵送/〒105-8521  
 東京都港区芝大門1-1-3  
 日本赤十字社 企画広報室  
 赤十字新聞2月号プレゼント係  
 ・FAX/03-3432-5507  
 ・メール/koho@jrc.or.jp  
 (件名「赤十字新聞2月号プレゼント係」)

●応募締切/2月27日(月) 必着

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



※イメージ



facebook に日赤公式ページができました。東日本大震災での取り組みをはじめ、とっさの手当てや献血のこと、国内外の活動現場の写真など赤十字ならではの最新情報を発信していきますので、ぜひご覧ください!  
<http://www.facebook.com/japaneseredcross>



被災地で行った「セミナー」を再現して報告。説明は日赤「こころのケア」の指導者でもある前田潤室蘭工業大学准教授(右から3人目)

「心の絆プロジェクト」報告会  
支援の輪でつながった成果を確認



全国 2011.12.19

東日本大震災の被災者や子どもたちにさまざまな形でのこころのケアを提供してきた「ヒューマン・ケア 心の絆プロジェクト」の活動報告会が12月19日、日本赤十字社本社で開催され、関係団体など約100人が参加しました。

同プロジェクトは、医薬品メーカーのグラクソ・スミスクライン(株)やTOKYO FMなどが共同主催したものです。絵本の読み聞かせ(読み聞かせボランティア)やおえかき会(岩手、宮城在住のイラストレーター、デザイナーなど)、マッサージサービス(国際アロマセラピスト連盟)、女性向けメイク(資生堂)、音楽会(ハープ奏者)など幅広い活動が昨年7月から9月にかけて岩手、宮城、福島県の3県56カ所で行われました。プロジェクトを後援した日赤は、これらの活動と連動させながら「こころのケア」や健康セミナーを開催。健康セミナーでは、心と身体の健康への注意を促したり、コミュニティーづくりのきっかけとなるプログラムを実施しました。

報告会で大塚義治日赤副社長は「さまざまな分野の知識・経験を持ったプロフェッショナルたちが支援というひとつの輪でつながった。今後の可能性を持ったプロジェクトが1回で終わるのはもったいない」と成果を強調しました。

日本赤十字社所蔵  
アート展  
ピカソらの作品も展示



1月7日の開催式には大塚義治日赤副社長も出席。展示作品を内覧し、震災復興支援への思いを新たにしました。左は佐藤正敏損保ジャパン会長



東京 2012.1.7~

東日本大震災のチャリティーとして「日本赤十字社所蔵アート展」が損保ジャパン東郷青児美術館(東京都新宿区)で2月19日まで開催されています。

展示絵画は、ピカソや梅原龍三郎など日赤創立100周年にあたって寄贈された画家の作品。東郷青児の「ソルフェリーノの啓示」など赤十字の創設や日赤設立にかかわる作品も多く、赤十字への理解も深まる内容となっています。

入場料は一般が500円、大学生・高校生が300円で、入場料収入の全額が東日本大震災義援金として寄付されます。美術館があるのは損保ジャパン本社ビルの42階。開館は午前10時から午後6時までで、月曜日休館となっています。

Sports スポーツとコラボ

バファローズ金子投手  
熱気の中でサイン会

長野 2011.12.28

オリックス・バファローズ金子千尋投手のチャリティーサイン会が12月28日、ながの東急百貨店で開催され、会場で販売したサイン用硬式ボールの売り上げが長野県支部に寄付されました。

金子投手のチャリティーサイン会は同百貨店の主催で2008年から続けられており今回で4回目。地元長野県で育ち、長野商業高校時代には甲子園出場経験もある金子投手を間近に見ることができるとあって、特設会場は大勢のファンで埋まりました。サイン会と併せて行われたトークショーでは、集まったファンから金子投手への質問も飛び出し、ファンの熱気に包まれました。



寄付金は赤十字事業の活動資金として活用される予定です



ハイチ大地震から2年

# より良い地域を目指す

## 赤十字ボランティア

日赤支援で育成中

「きちんと赤ちゃんに母乳をあげてるかい?」。給水所に水汲みに訪れる母親にボランティアの青年が声をかけます。いまハイチでは、立ち遅れていた保健・衛生環境の改善に、地域の人々が立ち上がりつつあります。日本赤十字社では、ボランティアの育成や給水・衛生環境整備などを通じ、人々の自立を支援しています。

死者23万人の被害をもたらした2010年1月のハイチ大地震。2年経つ今も、震災の爪痕が街を覆っています。

昨年12月中旬に被災地を視察した日赤国際部国際救援課の代田香苗さんは「首都ポルトープランスはいたる所に被災者のテントが張られています。残されたがれきは多く、ごみは散乱。治安も良くありません」と報告します。

こうした中、日赤は被災地のレオガン市で、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)と連携した給水・衛生及び保健に関する支援事業を2010年7月から展開。看護師など4人を派遣し、トイレや給水所の設置による生活環境改善を図るとともに、地域スタッフとボランティア育成を通じた人々の自立を促しています。

### ボランティアが担う保健知識の普及

母乳なんて嫌。これまでの5人の子にも母乳をあげたことはないわ——こう話す母親は、出産して病院から退院したば

かり。便の出を良くするため、オイルと塩を新生児に与えようとしていました。また、別の母親は予防接種を子どもに受けさせることを渋ります。衛生状態も悪く、子どもは感染症の疑いが出ていました。

保健に関する間違った知識を信じている人が少なくないハイチ。地域活動を通じて、健康相談や正しい保健知識の普及を図るのがボランティアの役割です。

「日赤の支援では、レオガン市に400人以上のボランティアを育成する計画。



地域スタッフによるボランティアへの研修会。マラリアなどの感染症や母子保健、性感染症、応急処置の方法といった日常の保健衛生に役立つ科目を学習します

すでに約120人が活動中です。この事例の母親たちもボランティアとの話し合いで、母乳に切り替え、予防接種を受けに行くようになりました」と代田さんは事業成果を強調します。

ボランティアを取りまとめる地域スタッフのフロリデさんは20代女性。彼女のもとには毎日、ボランティアから報告があがってきます。活動の手伝いをフロリデさんはこう語り



母親への保健指導を行うボランティア。地域の人々からは「知らないことを学べる。ボランティアには毎日来て欲しい」との声も

ます。「みんなの活動内容を聞くのが本場にうれしい。私たちスタッフやボランティアと住民とのつながりが強くなることで地域が良くなるんですから」

### 住民による維持・管理を目指す給水衛生事業

手にとったグラスの水に汚物を混ぜるスタッフ。「これ飲む人は? いまませんよね。みなさんの近くの川は排泄にも使われているから実はこの水と同じ。それを飲んでるから下痢をしたり、病気になるんですよ」。住民を対象にした給水・衛生に関する教育の一コマです。

給水所を約100カ所、約3600のトイレを設置する日赤の支援ですが、これだけでは長年の生活習慣は変わりません。住民への衛生教育も重視しています。

給水所の設置に際しては、水と衛生・健康について学ぶ場を設けるほか、住民による「水委員会」を結成し、自分たちで維持管理ができるよう工夫。学校での衛生教育や地域の清掃活動にも取り組んでいます。

## ICRCがジンバブエの刑務所で人道活動 被拘束者の待遇改善へ日本人スタッフも活躍

アフリカ南部のジンバブエ共和国で赤十字国際委員会(ICRC)は同国の刑務所を訪問する人道支援活動を2009年3月から継続中。日本赤十字社からICRCに出向中の五十嵐玲奈さんが刑務所訪問担当としてこのプロジェクトに加わっています。



収容されている人の状況を聞き取り調査する五十嵐職員©Alexander Vierheilic/ICRC

経済危機と干ばつ

に見舞われたジンバブエでは、08~09年にかけて深刻な食糧危機が発生し、刑務所内では餓死者や栄養失調者が続出しました。ICRCによる刑務所訪問はこうした事態の末、同国政府から許可されたもの。食糧・医薬品支援や生活必需品の配付などを行ってきました。

「国際基準を満たす被拘束者の処遇や生活環境の改善はICRCの任務の一つです」。五十嵐さんは赤十字が刑務所訪問を行う理由をこう説明します。昨年4月、首都ハラレの地域代表部に赴任した五十嵐さんは5つの刑務所を担当。昨年末までに延べ60回の訪問活動を行いました。

「最も重要なのは被拘束者への面談です。食事の状況や暴力の有無、家族への連絡が許可されているかなどを聞き取り調査します。改善の必要があれば、刑務

所長へ要望を出し、改善を促すのです」日本人という立場を活かして

ジンバブエでは、かつて「ローデシア」という国名だったころ、白人政権による人種隔離政策が実施されていました。そのため欧米人への反発はいまだに少なくないといいます。

「その一方で、日本人は親近感を持って迎われます。私が女性であることも相手に圧迫感を与えないようです。こうしたことが刑務所訪問での活動に役立つこともあります」と五十嵐さん。

食糧事情は改善されつつあり、食糧支援は終了しました。しかし、国際基準に則った被拘束者の処遇と刑務所の環境改善を目指し、訪問活動は今後も継続される予定です。

## 南部アフリカ HIV/エイズの課題 予防と生活支援重点に対策事業

HIV感染者数が多い南部アフリカ。日本赤十字社は同地域の5カ国(スワジランド、ナミビア、マラウイ、モザンビーク、レソト)で感染症対策事業を支援しています。このほど日本赤十字社和歌山医療センター感染症科部長・国際医療救援部副部長の大津聡子医師がスワジランド赤十字社とマラウイ赤十字社による活動を視察しました。

同地域の中で特に深刻な事態に陥っているのがスワジランド。国連共同エイズ計画によると、15~19歳の感染率は25.9%、女性に限ると31%にも上ります(2009年)。若い世代へのHIV感染拡大で、平均寿命は31歳とも47歳ともいわれるまで短くなってしまいました。

感染の多くは異性間の性交渉によるものです。さらに、貧困もHIV/エイズ感染拡大に拍車をかけてきました。

それでも近年は、長期間発症を防ぐことができる抗レトロウイルス薬が南部アフリカでも入手可能になり、感染者を取り巻く環境は改善しつつあります。しかし、働き手減少による労働力不足、エイズ孤児の増加、教育レベルの低下などは依然深刻です。また、村ではHIV感染者に対する社会的な差別・偏見もまだ根深くあります。加えて、干ばつなどによる食糧不足は感染者の生活をさらに難しくさせています。

こうした状況に対して、スワジランド



出前HIV検査を待つ人々(スワジランド)

やマラウイなどの赤十字社は草の根の地域保健活動を推進。ボランティアによる在宅看護支援、患者で構成されたサポートグループが自主栽培するための野菜の種の購入支援、エイズ孤児への授業料や制服支給、ピア・エデュケーション(仲間うちでの教育)を通じた若者への啓発活動などを行っています。

視察した大津医師は「南部アフリカのHIV/エイズ問題は、脆弱な保健医療体制や独特の文化伝統、さらには経済や国際情勢にも左右される難しい状況にあります。赤十字は予防と生活支援に重点を置き、本当に必要とされる活動を行っており、こうした活動を継続するために、日赤の末永い支援が必要です」と訴えています。